

琉球大学学術リポジトリ

米国管理下の南西諸島状況雑件 沖縄関係 米国議会審議（議会証言、議事録）

メタデータ	言語: 出版者: 公開日: 2019-02-14 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: - メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/43842

44.

9,

15,

スナイダー・マイヤー大使

下院

アシア太平洋問題

小委員会出席

出席

外務省		16(352) 10月7日
注 意		24
電信写		検査
<p>1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。 2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。</p>		
<p>○○○ 大政事務官 次次 臣官官署長 簿文会議給 総人電厚計 国務長官 参議企 長領 移動 長</p>		
<p>総番号(TA) 69年9月18日 16時15分 69年9月19日 08時51分</p>		主管 米国省発着米化
<p>外務大臣殿 下田 大使 臨時代理大使 総領事 代理</p>		
<p>オキナワ返かん交渉</p>		
<p>第2943号 極秘</p>		
<p>タナカ大使より</p>		
<p>アイチ大臣の國務長官との会談後、國務省は議会に対して本件交渉について了解工作を始めたが、関連情報次のとおり。</p>		
<p>1. 17日スナイダーはマイヤー大使とともに15日下院アジア太平洋問題小委員会(秘密会、出席者約40名の由)に出席し、交渉の経緯を説明したと述べ。本使よりふん団気はどうであつたかと質問せるに対し、THEY ARE NERVOUSと答えるとともに、返かん後の極東の安全保証、アジアにおける日本の責任、日米経済問題等について質問が出た。議会は返かんに伴う財政問題について強い意向を持っていると述べた。</p>		
<p>2. 17日フインは、マイヤー大使は前記小委員会の外、相当数の議員と会談し、了解工作に努めていると述べた。</p>		
<p>3. 18日ジョンソン次官は、これまで國務省が接触したのは外交委員会関係であり、かれらは NERVOUS ではあるが大体において問題に理解をもつてゐる。問題は軍事委員会であるが、現段階においては未だアプローチしていない。國務省としてはオキナワ返かんと日米経済問題とは別であるとの立場をとつてきたが、軍事委員会の構成員がせん維産業のある州の出身である等の事情もあり、今や事實上両者がからまつてきたと述べていた。</p>		
<p>(3)</p>		
<p>-2-</p>		
外務省		